

定期作況報告

平成25年6月
(6月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

5月下旬：最高気温および平均気温は平年より極めて高く、最低気温は高かった。降水量は平年より少なかった（平年比10％）。日照時間は平年並であった（平年比111％）。

6月上旬：最高気温、最低気温および平年気温ともに平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比3％）。日照時間は平年並であった（平年比114％）。

6月中旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温および平均気温は平年より高かった。降水量は平年並であった（平年比117％）。日照時間は平年並であった（平年比113％）。

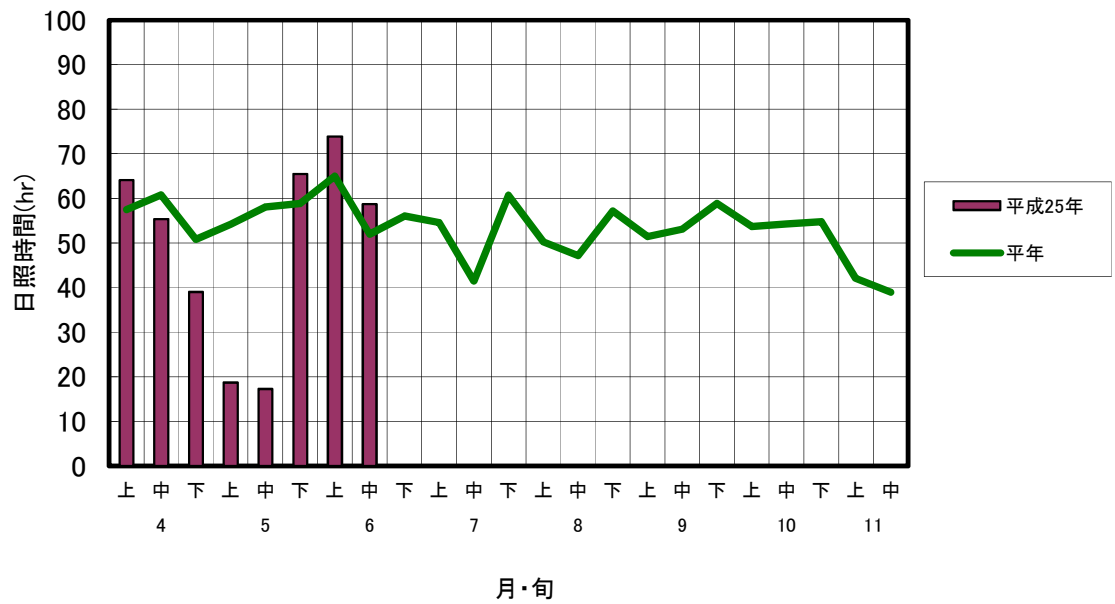
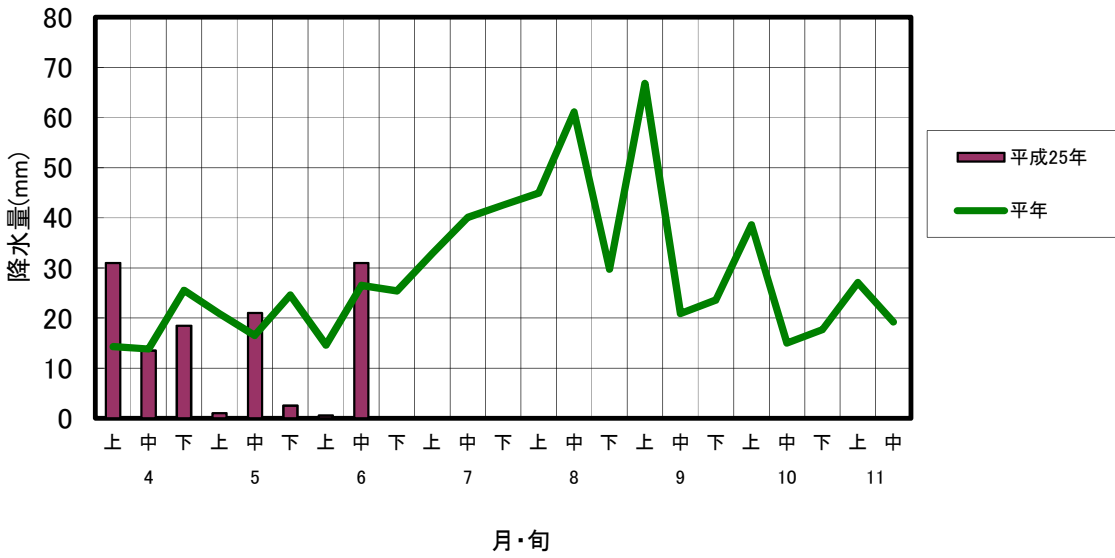
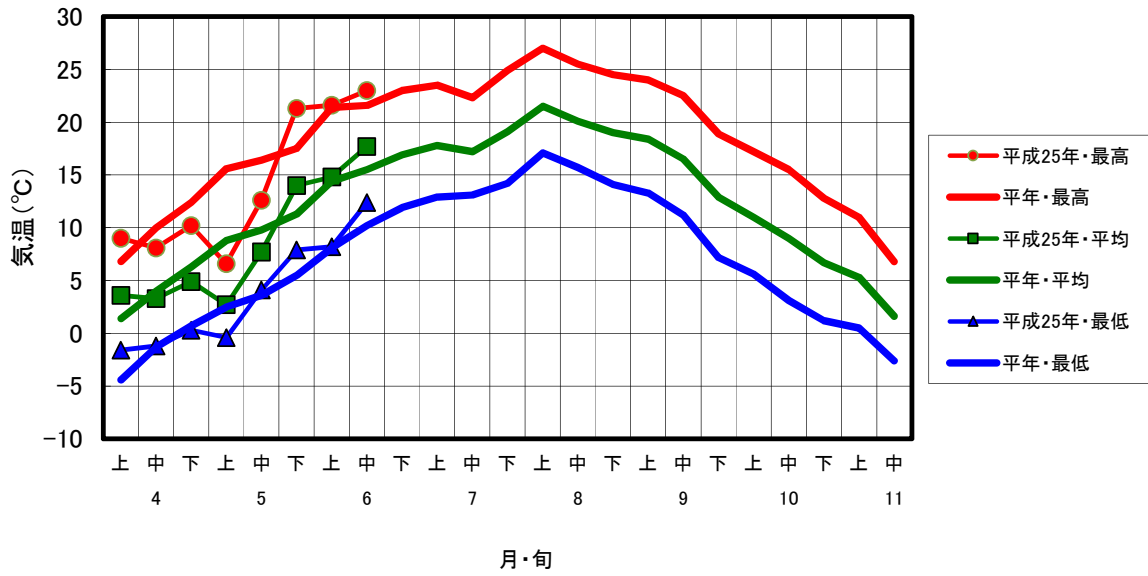
以上のことから、この1か月間（5月下旬～6月中旬）は平年と比較して、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
5月下旬	14.0	11.3	2.7	21.3	17.5	3.8	7.9	5.5	2.4
6月上旬	14.8	14.4	0.4	21.6	21.4	0.2	8.2	8.1	0.1
6月中旬	17.7	15.5	2.2	23.0	21.6	1.4	12.4	10.2	2.2

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
5月下旬	2.5	24.6	△ 22.1	65.5	58.9	6.6
6月上旬	0.5	14.6	△ 14.1	73.9	65.0	8.9
6月中旬	31.0	26.5	4.5	58.7	52.0	6.7

注) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：平年並

事 由：5月下旬から6月中旬の平均気温が平年並から高く推移したため、生育の遅れは回復し、出穂期は平年より1日遅い6月12日であった。草丈と茎数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
出穂期 (月・日)	6.12	6.11	1
草丈(cm) (6月20日)	87.9	88.9	△1.0
茎数(本/m ²) (6月20日)	798	813	△15

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：5月下旬から6月中旬は気温が平年並から高く推移し、降水量は少なかった。生育の遅れは回復し、草丈は平年並になったが、茎数は平年より少なかった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	64.8	65.9	△ 1.1	63.9	67.5	△ 3.6
茎数(本/m ²) (6月20日)	715	868	△ 153	714	849	△ 135

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

「はるきらり(参考)」の平年値は前6か年の平均。

3) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：平年と同日の5月17日に播種を行った。出芽期は平年より1日遅い6月1日であった。出芽後は、6月中旬の気温が平年より高く推移したため、草丈は平年をやや上回ったが、葉数は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.17	5.17	0
出芽期 (月.日)	6.1	5.31	1
草丈(cm) (6月20日)	32.7	28.1	4.6
葉数(枚) (6月20日)	4.9	4.5	0.4

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆 作 況：良

事 由：平年と同日の5月24日に播種を行った。播種後の気温が平年並～高かったため、出芽期は平年より4日早かった。出芽後の気温も平年並～高かったため、主茎長、本葉数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.24	5.24	0
出芽期 (月.日)	6.4	6.8	△4
主茎長(cm) (6月20日)	15.0	8.8	6.2
本葉数(枚) (6月20日)	2.2	0.6	1.6

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小 豆 作 況 : 良

事 由 : 平年と同日の5月24日に播種を行った。播種後の気温が、平年並～高かったため、出芽期は平年より2～3日早かった。出芽後の気温が高かったため、主茎長、本葉数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.24	5.24	0	5.24	5.24	0
出芽期 (月.日)	6.9	6.11	△2	6.9	6.12	△3
主茎長(cm) (6月20日)	4.5	3.1	1.4	5.0	3.2	1.8
本葉数(枚) (6月20日)	1.3	0.3	1.0	1.3	0.3	1.0

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜 豆 作 況 : 良

事 由 : 平年より1日遅い5月24日に播種を行った。播種後の気温が平年並～高かったため、出芽期は平年より3日早かった。出芽後の気温が高かったため、草丈、本葉数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.24	5.23	1
出芽期 (月.日)	6.6	6.9	△3
草丈(cm) (6月20日)	12.9	8.1	4.8
本葉数(枚) (6月20日)	2.1	0.5	1.6

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：植え付けは平年並の5月14日に行った。植え付け後の低温のため、萌芽期は「男爵薯」で平年より4日、「コナフブキ」で平年より5日遅かった。萌芽後の気温は平年より高く推移し、茎長は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年並に回復している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期 (月.日)	5.14	5.14	0	5.14	5.14	0
萌芽期 (月.日)	6.7	6.3	4	6.10	6.5	5
茎長(cm) (6月20日)	17.6	16.1	1.5	19.6	16.9	2.7
茎数(本/株) (6月20日)	3.2	3.6	△ 0.4	3.6	2.9	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：5月下旬および6月中旬の気温が高く、日照時間も十分であったため生育が回復し、移植栽培では草丈、生葉数、茎葉重とも平年を上回り、根重は平年並～やや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出芽期 (月日)	-	-	-	-	-	-	5.23	5.17	6
草丈(cm) (6月20日)	28.5	25.1	3.4	27.8	25.3	2.5	14.8	15.2	△0.4
生葉数(枚) (6月20日)	13.9	11.2	2.7	12.1	11.0	1.1	7.0	7.2	△0.2
茎葉重(g/個体) (6月20日)	128	89	39	109	92	17	15	16	△1
根重(g/個体) (6月20日)	24	18	6	18	20	△2	1	1	0

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前3か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 5月下旬の平均気温が平年より極めて高く推移したことにより、5月中旬までの低温による生育の遅れはやや回復が認められた。しかしながら、6月5日の草丈は平年より6cm低かった。その後も6月中旬の気温が平年より高く推移したため、生育は回復傾向にあるが、1番草の出穂始は平年より2日遅い6月16日、出穂期は平年より1日早い6月18日であった。なお6月20日現在、1番草の収穫は未実施である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
出穂始 (月.日)	6.16	6.14	2
出穂期 (月.日)	6.18	6.19	△ 1
草丈(cm) (6月5日)	67	73	△ 6

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

10) たまねぎ

作況: やや不良

事由: 5月下旬から6月中旬の気温は平年並から高く推移し、降水量は平年より少なかった。移植期が平年より5日遅れであった早生種「改良オホーツク1号」では、生育がほぼ回復し草丈および生葉数は平年並で、葉鞘径は平年をやや上回っている。一方、移植期が平年より9日遅れであった晩生種「スーパー北もみじ」では、葉鞘径は平年並であるが、草丈および生葉数は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植期 (月.日)	5.10	5.5	5	5.20	5.11	9
草丈(cm) (6月20日)	47.5	48.0	△0.5	27.3	33.2	△5.9
生葉数(枚) (6月20日)	6.4	6.7	△0.3	4.9	5.9	△1.0
葉鞘径(mm) (6月20日)	13.1	11.7	1.4	8.6	8.7	△0.1

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。